

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	脳を育てる療育プログラムチャイルド・ブレイン			
○保護者評価実施期間	2025年 1月 1日 ～ 2025年 12月 31日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	33	(回答者数)	24
○従業者評価実施期間	2025年 1月 1日 ～ 2025年 12月 31日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	11	(回答者数)	10
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 1月 31日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・柳澤運動プログラムを元に運動保育士が中心となり行う運動遊び+静かな活動(フラッシュカード、読み聞かせ)	・運動保育士内で運動遊び内容を共有しマンネリ化しないように実施 ・楽しみながら実施	・運動療育のスキルUP研修 ・スタッフも含めて楽しく体を動かす
2	・「ほごしゃプラス」(保護者会)の開催	・年に数回「ほごしゃプラス」を開催し、沢山の保護者様にご参加いただいている	第18回「親なきあとのお金のこと～財産の残し方編」 第19回「将来を見据えて育てたいもの、つけたい力」 に続く素敵な企画を立て実施していく
3	・季節を感じることができるプログラムを提供(外出、イベント、制作等) ・地域のイベントに参加(いちよう祭り) ・自立に向けた社会・生活体験	・四季折々の登山、4教室合同イベント、調理活動や外食の注文、いちよう祭りでの販売品の制作、売り子等様々な体験を積み重ね社会経験のスキルUPを目指している	・4教室合同のイベントを企画して実施する

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	療育プログラムのなかの「運動遊び」の時間が少なくなってしまう日がある	児童の所属学校が多く下校時刻がバラバラな点と、高学年になると登所時間が遅くなり十分な時間の確保が難しい時がある	・登所時間でグループを分け活動 ・短時間でも満足のいく運動プログラムの提供
2	児童数が多い日は教室内が手狭になってしまうことがある	・開所当初から教室スペースの狭さは問題としてあった ・建物の増改築も現状では難しい	・身体を動かすスペースと静かに過ごすスペースを分けている ・近隣の公園や広場での活動を取り入れていく
3	放課後児童クラブや児童館との交流、地域の子どもと活動する機会	地域の公園や市民センターはよく利用しており、地域の子供と関わる機会はあるが、交流活動としては行えておらず、交流しているか知らない保護者も多い	地域のお祭りや行事、いちよう祭り等での出店等で近隣住民や地域の方々との交流を行っている